



久山中学校だより



令和7年2月3日発行 第11号

未来パスポート事業の取組のご報告

急速なグローバル化により、子供の外国語、特に英語によるコミュニケーション能力の育成が益々求められている現状です。本町では、外国語（英語）教育の充実により、未来を担う久山の子供が、ふるさと久山に愛着をもちながら世界の人々とコミュニケーションをとる力、豊かな人間性、広い視野を培うことを目的に、株式会社久原本家グループ本社と連携し、グローバル人材育成事業「みらいパスポート」に取り組んでいます。中学校においては、既に本紙でも取り上げた「英語塾」「サマースクール（絵本の英訳）」に加え、「オンライン英会話」「一斉英語検定」等の取組がこの事業にあたります。

＜英訳絵本贈呈式＞

夏季休業中、サマースクールに参加した久中生有志が、山田小学校で作られた絵本の英訳に挑戦しました。この絵本を制作した当時の小学生が今の本校3年生にあたります。題材は、伊野天照皇大神宮です。昨年末に、久山町立の小中学校でバトンをつないだ英訳絵本が製本され、形となりました。

1月8日（水）の始業式後には、町長 西村勝様、久原本家グループ本社の岩本新治様、英訳の指導者である町内ALTの皆様が来校され、英訳絵本の贈呈式が行われました。贈呈式では、サマースクール参加生徒が代表で西村町長から絵本を手渡されました。この英訳絵本は、この後久原本家アメリカ支店にも置かれるということです。

この英訳絵本は、各学級で久中生全員に配られています。この英訳絵本をきっかけにし、久中生が今後もふるさとの歴史や文化に愛着をもち、それを誇りにして世界に発信する意欲を高めることを心から期待します。



絵本贈呈の様子



町長、関係生徒等の記念撮影



町長 西村勝様のお話（一部抜粋）

久山町では歴史学習を長い間継続しています。それはグローバル社会の今、これから皆さんが世界に出て行くことを考えますと、英語など多言語が話せるのはもちろんですが、町の歴史を知っておくことが大事なコミュニケーションツールになるからです。皆さんも外国の方と話しをするなどどんな町に住んでいるのか、どんな歴史がある町なのか聞きたくなると思います。地域を学び、地域を知り、自分の町に誇りをもつことはこれからの皆さんにとってとても大事なことだと思います。



代表生徒 山下優晴さんの挨拶

私がサマースクールに参加して成長したことが2つあります。1つは、たくさんの英単語を学ぶことができたことです。普段の英語の授業と違う、日本語の本を英訳する活動に取り組むことで、これまで知らなかった英単語を知ることができました。2つは友達と一緒に英語の学習ができるということです。友達と一緒に参加することで、共に英語への興味を高めることができました。サマースクールは英語にたくさん触れ、友達と一緒に活動できた良い経験でした。

＜一斉英語検定＞

1月17日（金）に、事業の支援を受けて、本校1、2年生を対象に英語検定が実施されました。これまで、1、2年生は、この受検に向けて英語の授業や特別に設けた時間等で問題演習に取り組み、それぞれの目標級の合格という自己実現に努めてきました。多くは5～3級の受検でしたが、中には準2級、2級に挑戦する生徒もいました。

受検内容は、リスニング問題と筆記問題で、音声問題を聞き取ったり、熟考したりする姿は真剣そのものでした。自己実現に全力を尽くすことは、自分の成長や将来の自分に対する責任を果たすことに他なりません。生徒の取り組み方からも、本校が目指す姿「判断・決定・責任」が具現化していることを垣間見ることができました。

本年度の本事業の取組は、残りの「英語塾」の他は、2月に実施されるセブ島の学生・大人と2年生の「オンライン英会話」となります。2年生は、自身のコミュニケーション能力等を高めるとともに、ふるさとの良さを発信する機会にしましょう。



受検会場の様子

小中連携の取組の推進 ～新入生・保護者説明会の実施～

1月18日(土)に久山会館にて、令和7年度新入生、保護者説明会を実施しました。土曜日にも関わらず、多くの新入生や保護者の皆様にご参加いただき、本校の指導方針等を共有させていただく貴重な機会となりました。

管内の中学校では、小学校卒業後、中学校の学習や生活、教育環境に馴染めないことから生じる不適応「中1ギャップ」の未然防止が依然課題となっています。本校では、その未然防止の対策として、11月の「小学生・中学校まるごと体験」、年2回の「特別支援学級なかよし交流会」といった小中連携の取組を位置付け、実施しています。

そして、この新入生、保護者説明会も同様に、新入生や保護者の皆様が本校の指導方針、行事、部活動等について予め知り、親しむ機会となることを目的の1つにしています。関係業者の皆様にも趣旨を伝え、丁寧な説明と対応をお願いしているところです。希望のご家庭には、久山町教育委員会の支援で、ランチサービスも体験できるようにしています。

新年度、新しい環境に身を置く人にとっては、物的環境もさることながら、そこでの人的環境が大切だと言われます。4月に新入生の皆さんが、安心して入学し、共に学びを深められるよう、迎える在校生の皆さんが良き先輩となる準備に努め、自らの指導性を磨くことを期待しています。



説明会の様子

第44回子ども会道徳カルタ大会のご報告

1月19日(日)に、久山町勤労青少年ホームにおいて、久山町子ども会育成会連絡協議会主催で、第44回子ども会道徳カルタ大会が開催されました。対象は小学生ですが、久中生も弟妹の応援に来場していました。校長も読み手として参加しましたので感想をご報告します。道徳性は、遊びや仲間とのふれ合い、生活の中で自然と身に付くことが重要であると言われます。礼儀正しく競技する小学生の姿を見ながら、久中生もこのような活動を通して公德心や責任感、礼節等の道徳的価値を学んできたことに思い至りました。改めて本町道徳教育推進の伝統の良さを実感しました。



道徳カルタ大会の様子

昨年度6学年の部優勝 只松綾菜さんの話

札に書かれていることは練習する中で楽しく覚えていくことができ、周りの友達に対する思いやりや優しさについて学ぶきっかけになったと思います。カルタは久山町の優しさについてよく書かれているので小学生はそこを理解して練習を頑張ってください。私はカルタを通して久山町の優しさについてよく知ることができました。一番心に残っているのは「ほたるが 我が久山に 夏近し」です。たくさんのはたるが久山にいて、たくさんの人が見に来ているので、このような久山を大切にしていきたいです。もう一つは「もみじも チョコンとすわり ごみひろい」です。町の環境づくりにも関心をもってこれからも取り組んでいきたいです。

人とより良く関わる力の育成 ～2学年高齢者疑似体験の実施～

1月27日(月)に、2学年総合的な学習の時間を活用して高齢者疑似体験を実施しました。日本赤十字社福岡支部と社会福祉協議会のご支援とご指導の下、2年生は、装具を着用して視覚・触覚体験と歩行体験を行いました。この中で、高齢者の方の視野や手先の感覚、膝や関節の可動域等を、文字を書いたり、お箸を操作したりすることを通して体感しました。特に、腰を伸ばしにくいことで生じる歩きにくさ、視野が狭いことで生じる歩行時の不安はインパクトがあったようです。異口同音に「不安だった」「怖い」「横の人の介助の声に安心した」等の声が和していました。

この学習は、高齢者の皆様が、日常的に感じている不安について学ぶとともに、どういう支援や寄り添い、声かけが必要かを考える貴重な機会となりました。相手がどう感じているか、何を求めているかを考えながら接することは、人間関係形成能力の基本であり、相手に対して責任ある発信をすることにつながります。2年生には、リーダー学年として後輩を導くことに学びを広げ、リーダーシップに一層磨きをかけてほしいです。



視覚・触覚、歩行体験の様子

豊かな感性の表出 ～2学年美術の作品展示～

本校美術室前に、2年生が美術の時間に制作した水墨画が展示されています。梅や菊といった季節の草木、風景等がモチーフです。ユニークな題材、視点もあり、2年生の感性の煌めきを感じます。ご来校の際は是非ご覧ください。



展示作品の一部